

[成果情報名] 乗用型管理機に対応した茶の樹形仕立て直し法

[要約] 茶の樹形を弧状畦から水平畦へ仕立て直す場合、生葉の収量低下が少なく芽揃いも良い
二番茶後の深刈り処理が有効である。

[キーワード] 茶樹形、水平畦、仕立て直し、二番茶後、深刈り

[担当] 総合農林試験場・東彼杵茶業支場

[連絡先] 電話 0957-46-0033 電子メール tsukamoto1@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 茶部門

[分類] 普及

[背景・ねらい]

県内における乗用型管理機の普及はここ数年で著しく多くなり、機械化に適した茶園の整備も行われている。そこで、茶の樹形を、従来の弧状畦から乗用型管理機に対応した水平畦へ仕立て直す方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．二番茶後の深刈り処理は、処理当年の二番茶生葉を確保でき、翌年以降の一・二番茶収量が多く、芽揃いも良い（表2、図1）。
- 2．一番茶後の中切り処理は、翌年一番茶芽の大きさが不均一である（表2）。
- 3．不せん枝部が多く残ると、その後の回復が遅く、翌年の生葉収量が減少する（表3、図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．中切り及び深刈り処理には、乗用型中切り機を使用する。
- 2．仕立て直し処理後も計画的な更新が必要である。

[具体的データ]

表 1 試験区の構成

区	試験区	仕立て直し処理年月日	処理前樹高(mm)	処理時の刈刃高(mm)
1	一番茶後中切り	2001年5月18日	813	500
2	一番茶後深刈り	2001年5月18日	814	600
3	二番茶後深刈り	2001年6月26日	851	600
4	二番茶後浅刈り	2001年6月26日	825	700
5	対照弧状(無処理)	-	-	-

注) 供試茶樹：試験開始時「やぶきた」28年生
年間窒素量：45kg/10a

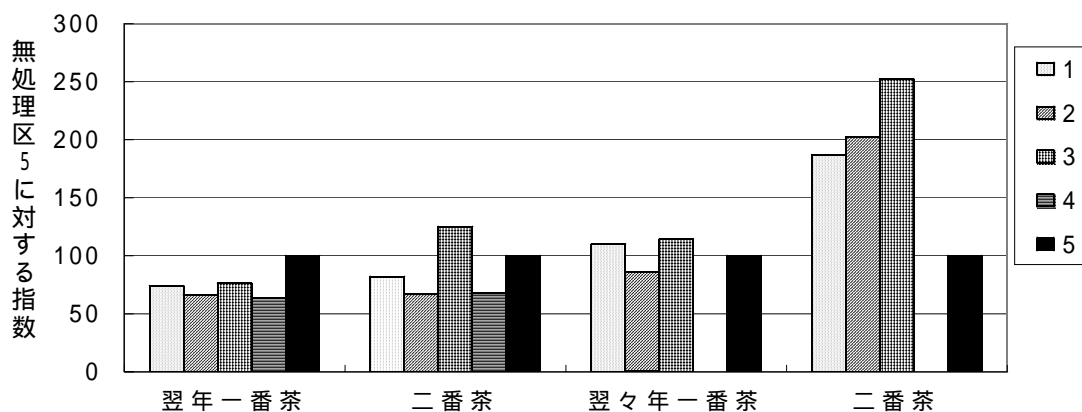


図 1 処理翌年・翌々年の生葉収量

表 2 仕立て直し処理翌年の一番茶生葉形質

区No.	調査部位 (畦の部位)	摘芽長 (cm)	摘葉数 (枚)	百芽重 (g)	芽数 (本/m ²)	出開度 (%)
1	東側	7.1	3.3	69.7	988	58.2
	中央	6.3	3.2	68.8	663	56.6
	西側	4.5	2.9	49.9	1000	65.0
2	東側	3.7	2.6	44.1	838	49.2
	中央	4.9	2.9	50.2	1000	62.2
	西側	4.3	2.9	43.4	975	78.9
3	東側	5.4	3.0	63.4	1025	63.4
	中央	5.0	2.9	51.7	1088	54.8
	西側	5.5	2.8	55.1	1063	45.9
5	東側	3.9	3.0	43.6	1088	75.9
	中央	4.7	3.0	45.3	1063	72.1
	西側	4.8	3.0	45.7	1025	73.2

表 3 仕立て直し処理後の不せん枝部幅の推移 (cm)

区No.	当年		翌年	
	処理直後	秋整枝後	二茶後	三茶芽せん除後
1	2.8	0.0	0.0	0.0
2	18.6	0.0	0.0	0.0
3	7.4	0.0	0.0	0.0
4	26.7	23.3	10.3	0.0
5	-	-	-	-

注) 不せん枝部幅：弧状から水平へ仕立て直した際、刈り刃のRの違いからせん枝できなかった弧状樹冠面裾部の片側の幅

[その他]

研究課題名：早期成園化を目指した茶園管理技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2002～2003年度

研究担当者：塚本統、森川亮一、古賀亮太